

宮古民報

2021.02.28

第1700号

日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 930円

駅裏に中央公民館移転

市は中央公民館の解体を機に宮古駅裏の市民交流センター施設内に同館を移転、交流センターの利用促進につなげる意向です。

中央公民館は老朽化だけでなく急傾斜地危険区域に隣接し、2019年の台風19号で被災、保久田公民館分館、山口公民館などに活動場所を移していました。

このため、市は4月1日から公共施設再配置計画により、駅裏に整備の交流センターにその機能を位置付け、旧館を解体する決定をしました。

公民館を利用していたサークル活動などの社会教育団体は、それに伴い、各室の利用、駐車料金は免除されます。

施設の定期利用も可能に

市民は年末、年始を除き9時から21時まで新中央公民館を利用できます。現在の交流センターは定期利用を受け付けていませんでしたが、市民の生涯学習の推進と施設利用の促進を図る目的から定期利用も可能としました。

参画と共同のまちづくり

これからは環境生活課と教育委員会とで市民活動の推進、男女共同参画社会の形成など施策の展開へ「宮古創生センター」とともに有効利用が課題になります。



106バス運行の中継拠点、やまびこ館

内容は平日12便、土日祝日9便の運航ダイヤとし、新里地域は臺目、川井地域は黒沢に停車が決まりました。住民は2停留所で急行、特急便(2F特急バスを除く)の利用が可能となりました。1日1往復で宮古駅午前

地域バス路線延伸

見直しでは新里、川井

道路整備効果を実感できる改正

市は25日の議員全員協議会に地元要望への対応を含む、106急行バス路線の見直しについて説明しました。

106急行バス路線を見直し

地域バス路線の延伸等も大きな特徴です。1日1便体制ではありませんが、新里地域では茂市、臺目区間、川井地域では陸中川井駅、やまびこ館を結び、地域住民の移動時間の短縮を保障します。

キャンペーン実施

利用促進へ、市内路線(一部を除く)バスが半額料金で乗り放題の「高齢者エリア定期券」事業も3月〜5月までキャンペーンで実施されます。

NPO法人に業務を委託

「宮古創生センター」は4月1日からの利用へ作業が行われています。市は、施設の管理業務を三陸NPO支援センター(館沼一理事長)に委託する条例を議会に提案、全会一致で決定されました。

市は指定管理業者の選定に公募方式を採用、1者だけの応札でしたが、法人は採用に必要な評価基準を達成してました。契約期間は本年度から2025年3月まで5年間、職員の人件費等委託費総額予算は2億1500万円です。

「創生センター」は若者等の交流を柱に地域の活性化が目的ですが、場所が津波浸水地域のため、利用者の利便性とともに震災時の避難確保に万全を期すことも重要です。

質問日程決まる

田中、落合両市議の一般質問の登壇日が以下のように決まりました。

- (登壇順に紹介)
- 落合久三議員 3月5日、午前10時
- 田中 尚議員 3月8日、午前11時頃

質問は4日から1日4人で3日間行われます。

崎尾会長が発言

全商連主催
シンポジウム

東日本大震災は津波が田老地区に高さ10mもの防潮堤(万里の長城)を超え、大きな被害をもたらしました。堤防は明治29年・昭和8年大津波を機に建てられた物です。

今は14・7mの防波堤もでき、三陸沿岸道路という沿岸の町をつなぐ道路も続々完成し、全線開通間近であり、ハード面の復興は10年の時を経てかなり進んだ印象です。しかし、地区単位で見れば更地のままの土地や、住民が戻らない地域など震災前の印象とは程遠い部分もあり、そういった



オンラインで参加、発言する崎尾誠会長

漁火

暦は明日から3月。卒業の時期でもある。それと同時にあの震災から10年の節目を迎える月になる

螢雪時代



▼竹内まりやさんの「いのちの歌」は「生きていくことの意味」から歌がはじまる。学校で小中学生が授業で歌っていることも知った。めぐりあえた奇跡は「宝物」▼よりそう「あなたの影」が懐かしいとも表現。そして「本当に大事なものは隠れて見えない」と意味深い歌詞が特徴でもある。ゆったりと癒される曲▼卒業は新たな出会いの始まり。筆者は「式」で歌った「螢のひかり」に懐かしさを覚える。「螢雪時代」は受験生向けの旺文社出版の月間雑誌▼今や、光はLEDの時代。その時代を生きる私たちの「宝」は言うまでもなく「命」。現実、自らそれを壊す若者などが増加。なかでも女性が多く政治の責任が問われる。